

併せて明年度の流行予測と成人女性への影響を考察した。また上述の状況を地元衛生機関及び医療機関に伝え、予防対策の樹立を要望し、特に妊婦と接する医療従事者からの伝播防止に注意をうながしている。

風疹ウイルス感染症に関する研究

分担研究者 岩手医科大学教授（細菌学講座）

川名 林治

金子 克, 齊藤 都

研究目的：

- 1) 風疹ウイルスの浸淫度の調査—
- 2) 風疹ウイルスの分離—診断
- 3) 風疹曝露者ことに妊婦に与える影響—
- 4) 風疹ウイルスの増殖の研究
- 5) 資料収集と情報交換

研究方法および成績：

- 1) 風疹ウイルスの浸淫度の調査
 - a) 岩手県下の風疹の抗体保有状況を昭和44, 49, 50年度と、年度別、年令別、地域別にやく500の血清について風疹抗体陰性率でみた。その結果、49～50年度では4～12才の陰性率がやく80～90%と非常に高く、大流行が予測された。これに対し、20才前後のものでは5～10%と低かった。

とくに高看、准看生についても調査したが同じ傾向を示した。

この成績をもとに、目下流行および非流行地域の住民の血清について抗体保有の動態を追求しつつある。

地域的には、県北2.1%, 県央6.3%, 県南6.7%, 沿岸13.2%, 沿岸部が高い陰性率を示した。なお他県血清500についても比較した。
- 2) 血清診断に用いるHIの検討：

血清インヒターの除去法は種々のものがある。そこで、カオリン、DS-C、リバノール

の3つの処理法によって風疹抗体価の比較を51検体についてみた。

その結果、目下、慎重な手技でおこなえばカオリン法が簡便で、実用的であると思われたがさらに今後の検討にまちたい。

なお、血球は1日ヒナ血球を用いている。

1 gM抗体の測定についても検討中である。また乾燥H A用血球の有用性もみとめている。

2) 風疹ウイルスの分離—診断

昭和50年に散発した風疹は、昭和51年に入り、岩手県各地で大流行の様相を示してきた。そこで、岩手医大小児科、岩手県予防課、その他関係病医院と連絡をとり、風疹の臨床ウイルス学的研究を実施している。

目下、久慈市、水沢市などからの風疹検体がとどいており（流行例として）、このほか、各地からの検体について分離をおこなっている。

RK-13, Vero, BHK-21などを用いているが、明らかに風疹と臨床診断されたもののやく80~90%から風疹ウイルスが分離されている。

なお血清診断でも、これを裏付けする結果が得られている。

目下、連日検体がとどけられているので、さらに研究を続行したい。

3) 風疹曝露者、ことに妊婦に与える影響。岩手県医師会、日母支部、その他を通じて、この点を明らかにするため努力している。

2例の人工流産例から風疹ウイルス分離を試みたが、陰性であった。

今後、夏から冬にかけて、先天風疹症候群児の出生が予想されるので、慎重に追求してゆきたい。岩手医大産婦人科の協力をえている。

なお、看護婦の罹患などあるため、抗体物チェックを予めするとともに、院内感染予防の点からも注意している。

成人の風疹には小児よりやや症状が重く、関節痛などを訴えるものがある。

4) 風疹ウイルスの増殖の研究

組織培養での風疹ウイルスの増殖を電子顕微鏡（走査型および透過型）を用いて研究している。ウイルス粒子の成熟、放出の像を観察している。

5) 資料収集と情報交換

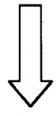
風疹の情報を岩手医大と関連病医院予防課を通じ連絡し合う一方、医師会や、マスコミによっても充分周知させるよう努力している。

風疹ウイルス感染による先天異常に関する研究班報告

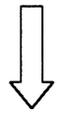
芦原 義守（千葉県衛生研究所）

研究目的：

妊婦の風疹ウイルス感染による先天性風疹症候群児出生頻度に関与する諸要因についての検討。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究目的:

- 1) 風疹ウイルスの浸淫度の調査—
- 2) 風疹ウイルスの分離—診断
- 3) 風疹曝露者ことに妊婦に与える影響—
- 4) 風疹ウイルスの増殖の研究
- 5) 資料収集と情報交換